

# 市場から世界をみれば

ISG 情報システム株式会社 大谷淳一



は聞こえてこない。

その後国は、中央卸売市場がこのままでは実態にそぐわなくなり、機能を満たさないと考え、新たな中央卸売市場構想を打ち出した、それが「拠点市場構想」である。この考へによると、拠点市場となるには、ある程度の取扱高と財務体質の基準を満たさなければなら

ない。つまり各中央卸売市場は、この基準に満たなければ彼らが「格落ち」と考えている地方卸売市場への転換を余儀なくさ

09年度に手数料の弾力化(自由化)を決めた国は、その後各会社に手数料の率を任せつきりにしている。

国の思惑としては、各都道府県で独自の基準を決めてもらう手はずであったが思惑は外れ、今だに手数料率が中央卸売市場で変更されたという話

では従来の「地方卸売市場」はどのようなにして「経営」を行い会社を維持してきたのか。一概に「地方卸売市場」が「中央卸売市場」より経営体質が「弱い」とは言えない。むしろ優遇されてい

出したのである。この時つはどれも世界を見据え点で従来の「市場」の役割「グローバル企業」で「経営」を行い会社を維持してきたのである。それら3つの勢力が妥当である。つまり日の目的はほぼ一致している。

「地方卸売市場」が「中央卸売市場」より経営体質が「弱い」とは言えない。むしろ優遇されていない分だけ「地方卸売市場」の方が経営体質が良いケースも多い。さらに現在では地方卸売市場の荷受会社が、中の再編をするのか、外圧ムを

「地方卸売市場」より経営体質が「弱い」とは言えない。むしろ優遇されていない分だけ「地方卸売市場」の方が経営体質が良いケースも多い。さらに現在では地方卸売市場の荷受会社が、中の再編をするのか、外圧ムを

## 第3回「生鮮の世界」 市場とは

売市場の荷受会社が、中の再編をするのか、外圧ムを

の取扱高と財務体質の基準を満たさなければなら

このように「生鮮物流の再編」という波が押し寄せてきているにもか

「拠点市場構想」を打ち

### 【略歴】

1957年北海道美唄市生まれ。85年、食品管理、生鮮管理のシステムを開発する情報システムを創業。荷受卸売業者や食品製造会社、仲卸業者向けのコンサル